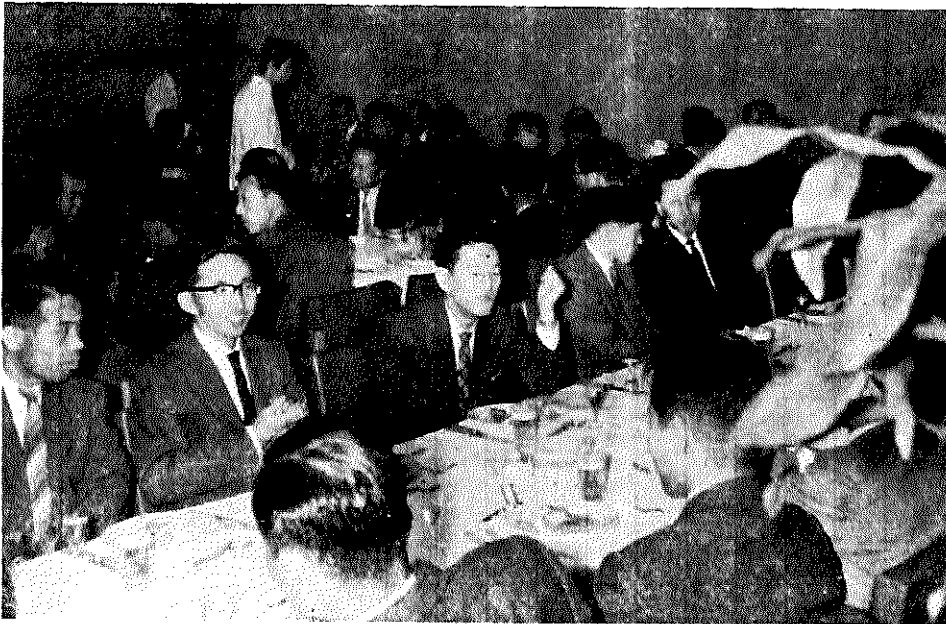


# 支部だより

## 第二回福井大学工業会支部総会開く

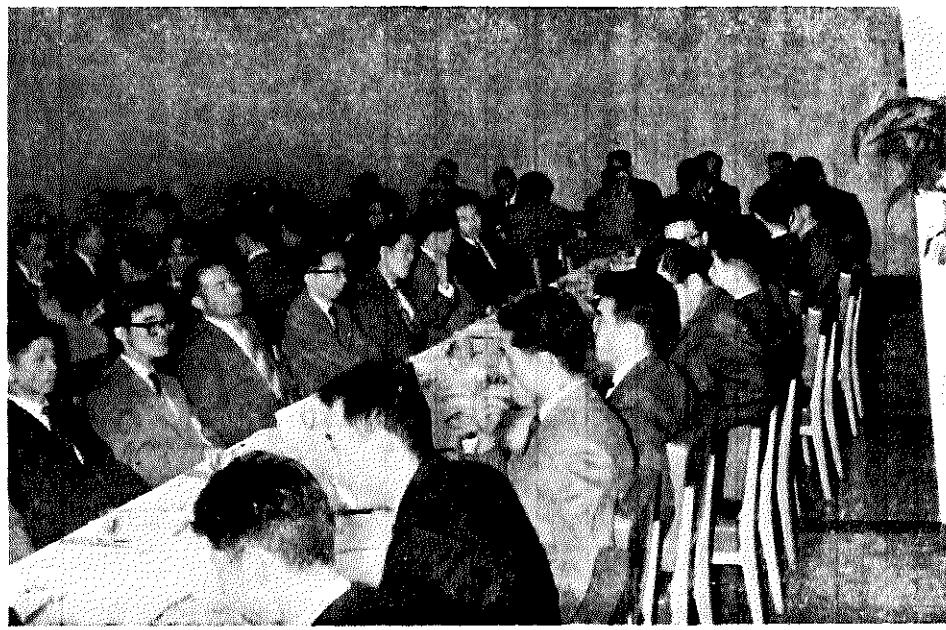
昭和三十六年十一月十二日、名古屋駅前愛知県中小企業センター地下みかどに於て、第二回東海支部総会を開催  
 来賓として、吉田喜一先

### 東海支部総会 於みかど



生、若杉専太先生、近藤秀雄先生、河野俊之先生及び本部より竹内理事長の臨席を得、支部会員静岡岐阜、三寛、愛知の四県より百七名参集して、盛大に開催した。

特別な議題はなく、来春の工業会総会を東海地区に



於て開催場所を引き受け、これについての準備体勢を整えることを中心とし、懇談懇親の宴を挙げた。

第一回以後、会員に相当の移動あり、移動判明分は本部に通知済のため本部会報により承知されたし。

### クラス会のこと、同窓会のこと

昭八A 立花量吉

一昨年二人、昨年も二人とふえて、われわれのクラスは九名が東京在勤となつた。卒業当時の総数三十二名、現生存者二十五名だから率から見ても東京在住者は随分高い方であろう。標準年令五十才というのだから、社会的にも家庭的にもかなり忙しい時期であるし大体クラス会などやって何の得がある、そんな暇があるなら上役か、お得意先のお相手でもした方がましだといふ実利的現世的な考えもある中で、この連中、地方在住の誰かが上京したとか、なんとか理由をつけては実によく集まる。はげしい時は週二回などということもあったし、平均して年十回はこしているであろう。しかも、大てい全員が顔をみせるといふ出席率である。回数が多いだけに家計にひびいてはとあって、寮とか、せいぜい「おでんや」程度という実質的なところが会場となり一回の支出は一〇〇〇円を限度とするという憲法もできている。この中で大いに飲み、食い、語らうというのである。勿論女気などはない。